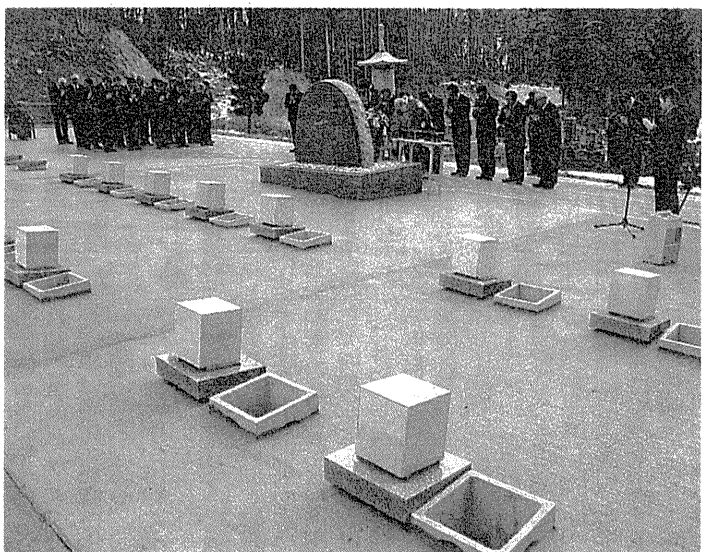


帰れる日まで安らかに

陸前高田

身元不明遺骨に墓

市が整備、慰霊碑も



陸前高田市は15日、同市米崎町の普門寺(熊谷光洋住職)で、東日本大震災の身元不明者の遺骨の納骨式と慰霊碑除幕式を行った。震災から間もなく2年。いまだに家族の元へ帰れぬ遺骨14柱に、参列者は静かに手を合わせ、復興への決意を新たにしていた。

戸羽太市長ら約40人が参列。慰霊碑を除幕し、熊谷住職が読経。市幹部が身元不明者の遺骨を納骨した。戸羽市長は「いずれは必ず家族の元へ帰ってほしい。これからすくすく成長してほしい。これからは、埋葬することでも必ず成仏する」と語った。

無縁墓地は寺の裏側に広がる480平方メートルほどの用地を市が整備し、遺骨を納めた箱を入れる四角い墓穴を25カ所用意した。そのうち14カ所の石の蓋には、納められる遺骨の発見場所と検視で付けられた番号が刻まれている。

細谷ユリ子さん(85)は「引き取る方がないのは本当に悲しい。せめて手を合わせたくて参列した。早く家族の元に戻ってほしい」と願った。

無縁墓地と慰霊碑は身元不明者の遺骨を安置していた普門寺の墓地に市が整備。それぞれの墓地には遺体安置所と番号が刻まれた。

同寺は2011年4月から身元不明者の遺骨を安置し、最も多いときで約360柱があったが、DNA鑑定などで判明し、徐々に引き取られた。

慰霊碑は川崎市の阿部石材店(阿部勝社長)が寄贈した。

身元不明者へ祈りささげ

普門寺で納骨式と慰霊碑除幕

陸前高田



陸前高田市米崎町にある普門寺(熊谷光洋住職)で15日、東日本大震災犠牲者無縁墓地身元不明納骨式と、慰霊碑除幕式が開かれた。市職員や関係者、地域住民合わせて約60人が参列し、無縁墓地に納められた遺骨14柱と、いまだ行方不明の市民217人に向けて祈りをささげた。

同寺は市内で発見された身元分からない震災犠牲者の遺骨を安置した参列者たちへ普門寺

無縁墓地は寺の裏側に広がる480平方メートルほどの用地を市が整備し、遺骨を納めた箱を入れる四角い墓穴を25カ所用意した。そのうち14カ所の石の蓋には、納められる遺骨の発見場所と検視で付けられた番号が刻まれている。

慰霊碑は、神奈川県川崎市の(株)阿部石材店(阿部勝社長)が、「石材店として被災地にできることを」と提案し、寄贈したもの。除幕式は同墓地で行われ、阿部社長、船橋兵悟同市総務局長、戸羽太市長、伊藤明彦市議会議長が幕を下ろした。

その後、熊谷住職が開眼供養を挙行。参列者らは、慰霊碑に向か

熊谷住職は「あの日から多くの遺族と出会い、いろいろなことを感じてきた。また見つからない人も含めて全員に成仏してもらえ、ことを信じ、毎日の供養を続けたい」と話していた。